

# トキ節のテンス・アスペクトについて

—動詞連体修飾節をメインに—

朱 薇娜

キーワード トキ節 相対的テンス 絶対的テンス アスペクト

## 1. はじめに

時間を表す副詞節には、「～とき(に)」、「～まえ(に)」、「～あとで」、「～ところ」、「～まで」、「～までに」などがある。その時間副詞節の修飾部(「～」の部分)にくる動詞のテンス・アスペクトは、日本語学習者にとって決して習得しやすくはない。特にトキ節の場合、多岐にわたる複雑な様相を呈している。

「～まえに」と「～あとで」は、複数(主に二つ)の出来事の時間的前後関係を表すのに使われ、主節時基準の違いによって「ル」形と「タ」形を使い分けしている。そこで、教育現場では「スルまえに」、「シタあとで」というまとまった形で教えれば、学習者も理解しやすい。(注1)

一方、トキ節の修飾部の動詞は様々な様相を呈している。すなわち「するまえに」、「したあとで」と違って、ル形やタ形のみならず、シテイル形、シテイタ形、シヨウトスル形、シヨウトシタ形など様々な形式が現れる。また、主節時基準と発話時基準の両方が許容されることもあるため、学習者にとって理解するのが難しい。具体的に言うと、中国語の“我在吃饭的时候，朋友打来了电话”という文は、日本語の「食事をしている時に、友達から電話がかかってきた」と「食事をしていた時に、友達から電話がかかってきた」の両方が許容される。前者は主節時基準で、後者は発話時基準(注2)で表出されている。このように、主節時基準でトキ節の時制を限定する中国語と比べて日本語のトキ節は複雑である。

そこで本稿では、このトキ節のテンス・アスペクトをめぐって中国語と対照しながら考察していく。

## 2. 先行研究

寺村 (1984) はトキ節について次のように述べている。

英語では‘テンスの一致’の法則によって、主節の動詞が過去形の場合は、‘when…’節の動詞は現在形で使えないが、日本語では、たとえば、

- [9] a 日本へ来ルトキ、友ダチが空港マデ来テクレタ  
 b 日本へ来タトキ、友ダチが空港マデ来テクレタ

の両方とも可能であり、しかも両者は明瞭に異なる内容を表わしている。主人公がたとえばタイ人だとすると、[9] aの空港はバンコック、[9] bのそれは羽田か伊丹ということになる。つまり、ここでは下線の‘現在形’は主節の動詞の表わしている時点（この場合は過去）において‘来ル’という動作・でき事がまだ完了していないことを、‘過去形’はそれが完了していたことを表わしている。つまりテンス的対立でなくしてアスペクト的対立である。

(寺村1984: 322-323)

また、三原 (1992) は従属節の時制に関して次のような視点の原理を打ち立てている。

視点の原理 (tense perspective)

- a. 主節・従属節時制形式が同一時制形式の組み合わせとなる時、従属節時制形式は発話時視点によって決定される。
- b. 主節・従属節時制形式が異なる時制形式の組み合わせとなる時、従属節時制形式は主節時視点によって決定される。

(三原1992: 22)

三原のこの原理をトキ節に当てはめて、前述の「食事をしている時に、友達から電話がかかってきた」は主節時視点で、「食事をしていた時に、友達から電話がかかってきた」は発話時視点となる。

工藤 (1995) では、継起関係を表す「マエニ」や「アトデ」と区分して、トキ節を共起 (同時) 関係としている。そして、継起性-同時性というタクシス関係 (時間的順序関係) により、従属文の述語形式が、アスペクトの意味を実現するか、相対的テンスの意味を実現するか、絶対的テンスの意味を実現するかを決めてゆくと指摘している。

池谷（2002）は形式的無標（「～する時、する」、「～した時、した」といったトキ節と主節の形式的テンス一致）と形式的有標（「～する時、した」、「～した時、する」といったトキ節と主節の形式的テンス不一致）の違いに基づき、意味的無標（スル時系列、トキ節が主節の時制に従属する）と意味的有標（シタ時系列、トキ節に主節と独立した時制を持つ）の対立ととらえ、トキ節の時制と主節の時制との関係を考察している。

寺村（1984）や工藤（1995）は、トキ節表現の一部しか取り扱っておらず、それ以外の用法についての分析が必要となる。また、池谷（2002）では、主にトキ節のル形やタ形をめぐって論述しているが、テイルやテイタなどに関しては触れていない。

そのため、本稿ではこれらの先行研究で取り扱われていない部分も対象にして考察していく。その目的は、トキ節のテンス・アスペクトの使用実態を明らかにすることにある。また中国語と対照しながら、中国人日本語学習者にとっての難点をさぐり、その効果的な教授法の模索を試みる。

### 3. トキ節の分類

まずトキ節と主節の可能な組み合わせを羅列してみる。トキ節のテンス・アスペクトに焦点を絞るために、主節のテンス・アスペクトを簡素化して、「ル」形と「タ」形の二種類に分けて考察することにする。これらは下記の8種類が挙げられる。

主節	従属節
Aグループ 主節「ル」形	スルとき
	シタとき
	シテイルとき
	*シテイタとき
Bグループ 主節「タ」形	スルとき
	シタとき
	シテイルとき
	シテイタとき

以下、3. 1節でAグループについて、3. 2節でBグループについて分析する。

例文は中日新聞・東京新聞記事データベースから収集した。

### 3. 1 A主節「ル」形

#### A 1 スルとき

- (1) せきやくしゃみをする時は、必ずティッシュや袖の内側で口と鼻を覆い、しぶきを周辺にまき散らさないようにする。

(2009年08月20日 東京新聞 朝刊1面 1頁)

(咳嗽或者打喷嚏的时候，一定要用纸巾或者袖口内侧掩住口鼻，小心不要让吐沫向周围飞溅)

主節の述部の動作・行為が複数ある場合、トキ節の述部の動作・行為と主節述部の動作・行為の時間的前後関係を細分すると、煩雑になりかねない。例えば、例文(1)におけるいくつかの動作を時間軸で位置づけると次のようになる。

「口と鼻を覆う」は従属節動作の「せきやくしゃみをする」の前に行うが、「しぶきを周辺にまき散らさないようにする」は、「せきやくしゃみをする」前に行うことなのか、「せきやくしゃみをする」と同時に行うことなのか、どちらとも解釈できる文である。

#### A 2 シタとき

- (2) 財政をみても、一般会計に占める民生費は30%超と、西三河各市に比べても高い。高齢化・少子化がさらに進行した時、今までのような高負担・高品質の福祉を続けられるのか。

(2009年08月21日 中日新聞 朝刊豊田版 19頁)

(財政方面，民生费占一般会计的比例超过30%，高于西三河各市。老龄化和少子化进一步加剧的时候，以往的这种高负担高质量的福利还能维持下去吗)

例文(2)の「進行した」の「タ」は完了を表す。一方、中国語では、完了・過去の標識の“了”は文末に置かれるのが普通であるため、中国語の訳文には、「タ」に対応する完了・過去の標識の“了”が出現してない。そのため、中国人学習者にとって習得しにくい点になる。例文(2)に対して、中国人日本語学習者は「進行する時」のように言ってしまう傾向がある。

#### A 3 シテイルとき

- (3) ウミガメは産卵している時に、涙を流している。

(2009年08月20日 中日新聞 朝刊岐阜近郊版 16頁)

(海龟在产卵的时候，会流眼泪)

「産卵している」の「シテイル」は動作進行を表すアスペクトの標識である。

#### A4 シテイタとき

- (4) \*ウミガメは産卵していた時に、涙を流している。

(海龟在产卵的时候, 会流眼泪)

A4 「シテイタとき、～する」というパターンは手元にあるコーパス (CD-ROM版新潮文庫の100冊と中日新聞・東京新聞記事データベース) を利用して調べてみたが、これに該当した例文は出てこなかった。例文(4)は例文(3)をもとに、筆者が作ったものである。これが文法的に合わない理由はこの「タ」にあると考えられる。「テイタ」は進行状態標識の「テイ」と過去か完了標識の「タ」から構成されている。ここで「テイ」は動作の進行というアスペクトの役割をすでに担っているため、「タ」は完了のアスペクトにならず、過去のテンス標識としての役割しか担えない。したがって、文末の現在形と矛盾することになり、許容されないわけであろう。

以上は主節「ル」形のトキ節の使用実態である。次は、Aグループの特徴及び中国語との相違点を概観してみよう。

主節「ル」形は主節の述部が非過去形である。例文(1)は日常の習慣的な出来事を表し、例文(2)は将来の出来事を表し、例文(3)は恒常的な出来事を表している。これらの主節は未来一回性のことあるいは常時のことを表しているため、従属節のトキ節の「タ」が絶対的テンスの「タ」にはなりえず、相対的なテンスの「タ」か、アスペクトの「タ」になる。また、例文(2)の「タ」は未来の出来事の叙述であるため、完了を表すアスペクトの「タ」でなければならない。

「タ」を過去と解釈しやすい傾向のある中国人日本語学習者にとって、A2の文型は決して習得しやすいとは言いがたい。実際、13人の中国人日本語学習者にアンケート調査してみたところ、そのうち誤答率が38.5%に達している。

(注3)

アンケート調査に出した例文は次の4つである。

- (5) お客様が\_\_\_\_\_時は、いつも歓迎会が開かれる。

A 来る B 来た

(客人来的时候, 总是会举行欢迎会)

- (6) このホームから\_\_\_\_\_時は、ホーム下のできるだけ奥に避難して下さい。

A 転落する B 転落した

(从站台上跌落下去的时候, 请躲到站台下面的最里边)

- (7) 外国の皇族が日本に\_\_\_\_\_時、宮廷で晩餐会が開かれます。

A 来る B 来た

(国外的皇室来日本的时候, 在宫廷会举办晚餐会)

(8) 線路内に物を \_\_\_\_\_ 時は、係員にお申し出ください。

A 落とす B 落とした

(物品掉在轨道上的时候, 请和车站的工作人员联系)

例文(5)に関して、12人の日本人母語話者を対象にしたアンケートでは、「来る」「来た」両方使えたと答えた人が4人(33.3%)、「来る」と答えた人が2人(16.7%)、「来た」と答えた人が6人(50%)であった。一方、13人の中国人日本語学習者の場合は、「来る」と答えた人が10人(76.9%)、「来た」と答えた人が3人(23.1%)であった。母語話者と比べると、現在形の「来る」を選んだ人が多かった。また、例文(7)に関して、中国人日本語学習者は同様にル形を選んだ人が多かった。上述の中国語の訳文は、いずれも過去や完了を表す標識“了”が表示されていない。したがって、上の結果は母国語である中国語からの転移のゆえと考えられる。また、例文(6)(8)においては、日本人母語話者は「タ」形しか許容しないが、中国人日本語学習者はいずれも38.5%の人が「ル」形を選択している。中国語の訳文では、動作述語の後に結果補語の働きをする“下去”や“在”が出現しているが、完了標識の“了”がないため、誤用を起こしたと考えられる。

では、Aグループにおいて、従属節のル形とタ形の対立をめぐって、考察してみよう。次の三パターンがある。

a ル形とタ形が両方許容されている 例文(5)(7)

b ル形のみ許容されている 例文(1)(9)

(9) ノートが要るときは、遠慮なく言ってください。

c タ形のみ許容されている 例文(6)(8)

工藤(1995)はル形とタ形の対立に関して次のように述べている。

スルーシタの対立の根底にあるのは、<以後—以前>であろう。これは、終止の位置では、発話時を基準とする絶対的テンス対立となり、非終止の位置の継起タクシスの場合には、主文の出来事時を基準とする相対的テンス対立となる。そして、同時タクシスの場合には、<運動内部の時間的限界への到達>が<以後か以前か>というかたちで、アスペクトの対立を前面化させる。

(工藤1995: 225)

それは例文(5)(7)におけるタ形が許容されている理由をうまく説明している

が、ル形の許容の理由をまた別のルールで解釈しなければならない。まず、結論を先取りして述べると、例文(5)(7)の従属節のル形は絶対的テンスのル形であるからだ。では、二つの例文を見てみよう。

- (5) お客様が来ます。その時は、いつも歓迎会が開かれます。  
 (7) 外国の皇族が日本に来ます。その時は、宮廷で晩餐会が開きます。  
 その独立した二つの文をトキでつなぐと、それぞれ例文(5)(7)になる。  
 一方、同じように例文(6)(8)を分解すると、つぎの二文になる。  
 (6) このホームから転落しました。その時は、ホーム下のできるだけ奥に避難してください。  
 (8) 線路内に物を落としました。その時は、係員にお申し出ください。  
 (6) \* このホームから転落します。その時は、ホーム下のできるだけ奥に避難してください。  
 (8) \* 線路内に物を落とします。その時は、係員にお申し出ください。

時によってつないだ複文はこのように、(5)(6)(7)(8)ともに「～、その時(に)」を用いて、二文に分解することができる。ただ(6)'' (8)'' は現在形のテンス「転落します」「落とします」を用いると、違和感を感じる。つまり例文(6)(8)においてはタ形しか許容されない。例文(6)(8)における現在形の違和感について、ル形ではなくタ形を用いなければならない理由について、ある日本人母語話者はアンケートで次のように意見を記述していた。

「転落する」や「落とす」を使うと、わざわざ自分から「転落する」や「落とす」感じを受ける。

「転落」や「落とす」は避けるべき事態である。一般的な事態ではない。結果として「転落した」や「落とした」場合だけを限定して表わすためには「タ」を用いるのが適切である。

文末のル形が未然の出来事や習慣や真理を表わすことが多いため、将来性と意志性が絡み合うところがある。アンケートの意見は文中のル形にもこのようなニュアンスがつきまとうことを裏付けている。

また例文(9)の「要る」のような動詞は動作性がほとんどなく、願望を表す形容詞「ほしい」に近い性質をそなえていると考えられる。そのように、トキ節の述語動詞の意味や類型がそのアスペクト・テンスの選択に大きく影響している。

一方、絶対的テンスが許容されているのは、トキ節の同時性から来ていると考えられる。つまり、従属節事態がル形で、発話時将来を表して、主節自

体もル形で発話時将来を表しているので、マクロな時間範囲の中で同時に行うことを意味しているといえよう。

「その時には」を利用し、トキ節の複文を独立した二文に分解して、この二文の文法性から、トキ節のテンス・アスペクトを判別する。この方法を日本語教育現場で援用してみることが、ひとつの手段となろうかと思われる。

### 3. 2 B主節「タ」形

#### B1 スルとき

- (10) 自宅の玄関に一枚の絵が飾ってある。四年半の初任地の天津支局勤務を終え、離任する時に日本画家の鈴木靖将さんが贈ってくれた。

(2009年08月01日 中日新聞 朝刊オピニオン 7頁)

(我家的玄关装饰着一张画。那是我结束了我的首份工作，工作了四年半的天津分局，要离开的时候，日本画家铃木靖将送给我的。)

三原の視点の原理でも述べているように、例文(10)は主節と従属節の時制形式が異なるため、主節時視点で主節より従属節が未来の事態である。一方、アスペクト的に見ると、「離任する」という動作が未完了段階にあることを表す。この場合、中国語の訳文には、非過去の事態につながる助動詞「要」が出現する。

#### B2 シタとき

- (11) 「私は鳩山さんに二問聞きます」

共産党の志位和夫委員長がこう切り出した時、会場にさざ波が立った。

(2009年08月20日 中日新聞 朝刊岐阜近郊版 16頁)

(“我要问鸠山两个问题”

当共产党的志位和夫委员长这么提出来的时候，会场里引起了阵阵涟漪。)

「切り出した」の「タ」は、アスペクト的にみると、動作・行為の完了を表明し、また、絶対的テンスの過去の「タ」でもある。中国語の訳文には、「タ」に対応する完了・過去の標識の“了”が出現してないが、動作述語の後に結果補語の働きをする“出来”が出現している。

#### B3 シテイルとき

- (12) 部屋で過ごしている時は、お話をしたり、トランプをして楽しみました。友達とは、いろいろなことをして楽しめたのでよかったです。

(2009年08月13日 中日新聞 朝刊知多版 14頁)

(在房间里打发时间的时候，和朋友说说话，打打扑克，过得很快乐。能和朋友一起经历分享很多事情，真好。)

「過ごしている」の「テイル」は動作の進行形で、アスペクト的に継続を表している。この場合は、「過ごしていた」にも置き換えられる。一方、この場合に



中国語は現在形で表されている。

#### B4 シテイタとき

- (13) 四年ほど前の出来事を思い出しました。台所で食事の準備をしていた時、庭の方から夫の音が聞こえました。

(2009年07月23日 中日新聞 朝刊三社 29頁)

(我想起了一件四年前左右发生的事情。当我在厨房做饭的时候，院子里传来了丈夫的声音。)

上記A4の例文(4)の非文法性を分析したときに、すでに判明したように、「シテイタ」ときの「タ」は完了のアスペクトにならず、過去のテンス標識としての役割しか担えない。「していた～た」という文は、英文法の「時制の一致」と同感覚といえよう。池谷(2002)では次のように述べている。

英語のwhen節において、形式的に主節との「時制の一致」が強く働くのに対して、日本語のトキ節においてはこの制約がかなり緩やかに見える。緩やかと言うよりも寧ろ存在しないようにすら見える。

(池谷2002: 55)

実際、日本人母語話者にアンケートを取ってデータを分析したところ、「ていたとき、～た」の許容度と「ているとき、～た」の許容度を比べると、「ていたとき、～た」のほうが高いことが分かる。個人差もあるが、12人のうち、「ているとき、～た」より「ていたとき、～た」を選ぶ傾向をうかがえるのが6人、ほぼ同じように使うという人が4人、残りの2人は「ているとき、～た」のほうがしっくりくると言っている。(注4)

次に、B系列を総括する。B1は主節と従属節ではル形とタ形の不一致が存在するところではA2と同じ次元の問題である。ただ、トキ節において過去・完了標識の“了”などをいっさい表示しない中国語に比べ、さほど習得しがたくはないと思われる。また、B3、B4の両方許容の問題、それから、述語の意味類型によっては、絶対的テンスの「タ」形とも置き換え可能ということは、アンケートで明らかになった。ここでアンケートに出てきた一文を例にして分析してみる。

- (15) 去年の夏休みに、沖縄で\_\_\_\_\_時、道を横断しようとしたおばあちゃんにぶつかりそうになった。

A ドライブする B ドライブした C ドライブしている D ドライブしていた

母語話者のアンケート結果では、B、C、Dはそれぞれ高い許容度を示してい

る。

絶対的テンスの「ドライブした」が許容されているのは、A系列で述べたように、トキ節の同時性から来ていると考えられる。つまり、従属節事態がタ形で発話時より過去を表し、主節自体もタ形で発話時より過去を表しているため、マクロな時間範囲の中で従属節の動作と主節の動作を同時に行うことを意味している。また、「ドライブしている」は従属節の述語をアスペクティックにとらえ、マクロな時間範囲の中で更に主節と従属節の動作・行為の時間的關係を細かに規定する。「ドライブしていた」はアスペクトの進行とテンスの過去の同時表出であると考えられる。

#### 4. おわりに

トキ節のテンス・アスペクトは、相対的テンスで考えるより、絶対的テンスで考えるか、または接続助詞化した副詞節の述語のアスペクトを考えるほうが論理的だと思う。本来は、文意の首尾を通すためにも、「トキ節」は共起（同時）關係に属し、従属節と主節が「トキ」でつながって、同一のマクロな時間範囲にあると考えられる。したがって、従属節の述語と主節の述語との外面的時間關係における前後關係を考えるより、従属節の述語の内部進行状態を考えたほうが理解しやすくなる。「トキ節」には「～。そのときには～」といった二文に分解できるものがある。このようなものは、トキ節のテンス・アスペクトを判別する手段のひとつとなると考えられる。

#### 注

- 1 必ずしもあらゆる場合に「するまえに」、「したあとで」となるとは限らない。橋本（2004）では、「君が見た（見る）一年も前に、私はその映画をアメリカで見た」、「君が会う（会った）2時間後に、僕も山田さんに会う予定です」といった例文が挙げられている。これについて、「連体修飾節と主名詞「まえ」「あと」との間に「一年（も）」「2時間」のような要素が介在すると許容されるようになる」と述べている。これに関し、本稿では例外として取り扱わないこととする。
- 2 主節の時間を基準に、従属節のテンスを判断する場合は、主節時基準という。一方、発話時の時間を基準に、従属節のテンスを判断する場合は、発

話時基準という。

- 3 例文(6)(8)は地下鉄の標語から、例文(5)(7)は池谷（2002）に基づいた作例。
- 4 アンケート用の10の例文を後の付録につけてある。

## 参考文献

- 荒川清秀（2003）『一步すすんだ中国語文法』大修館書店
- 庵 功雄（2001）『新しい日本語学入門：ことばのしくみを考える』スリーエーネットワーク
- 池谷知子（2002）「時を表す従属節の時制決定」『日本語・日本文化研究』第12号PP：55-64
- 岩崎卓（2001）「複文における時制」『月刊言語』Vol.30 No.13 12月号 大修館書店
- 工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテキストー現代日本語の時間の表現ー』ひつじ書房
- 工藤真由美（2001）「述語の意味類型とアスペクト・テンス・ムード」『月刊言語』Vol.30 No.13 12月号 大修館書店
- 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 三原健一（1992）『時制解釈と統語現象』くろしお出版

## 付録

選択肢の中から、次の文章の下線のところにふさわしい答えを選んで下さい。答えは一つだけとは限りません。

- 1、お皿を\_\_\_\_\_時、手が滑って一つ割ってしまった。  
 A 洗う B 洗った C 洗っている D 洗っていた  
 適切な答え（            ）  
 違和感を感じるが、間違いとは言い切れない（            ）
  
- 2、昨日、お皿を\_\_\_\_\_時、手が滑って一つ割ってしまった。  
 A 洗う B 洗った C 洗っている D 洗っていた  
 適切な答え（            ）

違和感を感じるが、間違いとは言い切れない ( )

3、沖縄で\_\_\_\_\_時、道を横断しようとしたおばあちゃんにぶつかりそうになった。

A ドライブする B ドライブした C ドライブしている

D ドライブしていた

適切な答え ( )

違和感を感じるが、間違いとは言い切れない ( )

4、去年の夏休みに、沖縄で\_\_\_\_\_時、道を横断しようとしたおばあちゃんにぶつかりそうになった。

A ドライブする B ドライブした C ドライブしている

D ドライブしていた

適切な答え ( )

違和感を感じるが、間違いとは言い切れない ( )

5、家で\_\_\_\_\_時、宅配便が届いた。

A 食事をする B 食事をした C 食事をしている

D 食事をしていた

適切な答え ( )

違和感を感じるが、間違いとは言い切れない ( )

6、先週の日曜日に、家で\_\_\_\_\_時、宅配便が届いた。

A 食事をする B 食事をした C 食事をしている

D 食事をしていた

適切な答え ( )

違和感を感じるが、間違いとは言い切れない ( )

7、公園で\_\_\_\_\_時、偶然山下先生に出会った。

A 散歩する B 散歩した C 散歩している

D 散歩していた

適切な答え ( )

違和感を感じるが、間違いとは言い切れない ( )

8、ゆうべ、公園で\_\_\_\_\_時、偶然山下先生に出会った。

A 散歩する B 散歩した C 散歩している D 散歩していた  
適切な答え ( )

違和感を感じるが、間違いとは言い切れない ( )

9、\_\_\_\_\_時、蚊に刺されて目が覚めた。

A 寝る B 寝た C 寝ている D 寝ていた  
適切な答え ( )

違和感を感じるが、間違いとは言い切れない ( )

10、昨夜、\_\_\_\_\_時、蚊に刺されて目が覚めた。

A 寝る B 寝た C 寝ている D 寝ていた  
適切な答え ( )

違和感を感じるが、間違いとは言い切れない ( )

最後には、判断の基準をお教えいただければありがたいです。一言でも二言でも構いません。

{ }